

# CSV通信 第2号

令和 5年 10月発行  
東京都立中野特別支援学校  
校長 和田 慎也  
文責：CSV 柴田牧子

～東部中部西部 地区だより～

## 高等学校との様々な連携

都立学校発達障害教育推進エリアネットワーク（通称：都立版エリアネットワーク）が始まり2年目。高等学校での特別支援教育の充実に向け、連携が進んでいます。

### 対面で交流を活発に！

～東部地区～

昨年度より学校経営支援センターを会場として、地区拠点校が対面による情報交換会を行っています。今年度は3回行う予定です。地区拠点校のコーディネーターと自立支援担当統括支援主事、地区のシニアスクールカウンセラーが集まって、忌憚のない意見を出し合っています。また、特徴的な連携事例を地区拠点校がスライド等で発表したり、自分たちで研修したい内容を出し合ったりして、ミニ研修会も行っています。これからも、子供たちだけでなく教員も、主体的で協働的な取り組みを行っていききたいと思います。



### 離れていても オンラインを活用して

～中部地区～

地区拠点校が主催する地区情報交換会を御紹介します。青鳥特別支援学校のエリアには島しょ地区の八丈高等学校も含まれるため、オンラインを併用して実施していました。八丈高等学校と青鳥特別支援学校八丈分教室との交流や連携の様子が情報提供されていました。

また定時制等の高等学校がエリアにある地区拠点校でもオンラインを併用しています。Teamsでつなぐことで、その場で話題になった資料の共有がスムーズに行われていました。

### 校内支援委員会で共に考え

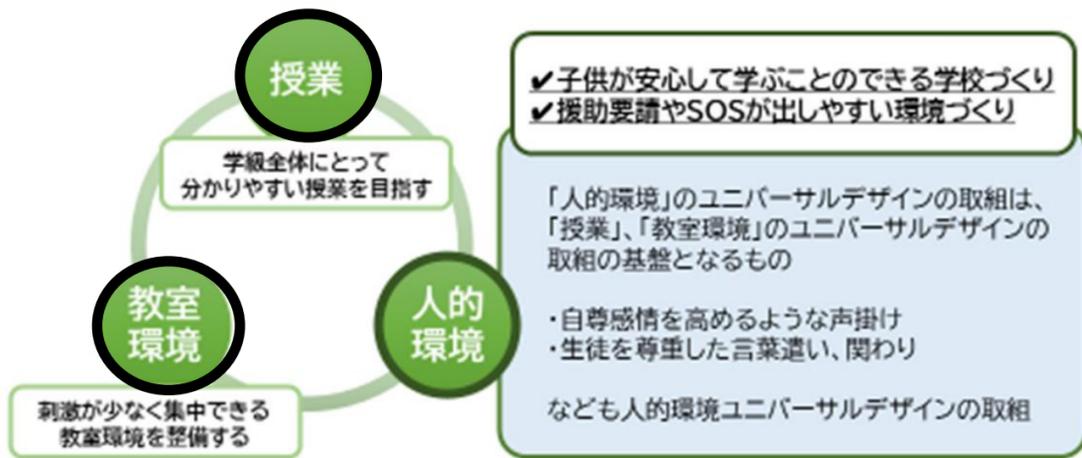
～西部地区～

A 高等学校では、昨年度より校内の特別支援委員会に担当地区拠点校コーディネーターとCSVを招いて実施しています。それまでの、各学年の現状報告に加えて、地区拠点校が参加することで、学校でできそうな支援や関係機関の紹介など、特別支援教育の幅がより深まりました。

B 高等学校では、毎週1回放課後に関係の教員で集まり、相談会を実施しています。加えて今年度は別日に全教員を対象として、特別な配慮が必要な生徒のケース会議を実施しました。その際に地区拠点校のコーディネーター、CSVが参加し具体的な支援方法を紹介しました。



# ユニバーサルデザインの3つの柱



東京都教育委員会都立学校教育部より

特別支援教育は、特別支援学校のみならず、全ての学校において実施されます。今回は、「だれにとっても分かりやすい」という考え方から、都立高校で取り組んでいる「ユニバーサルデザイン」についてご紹介します。

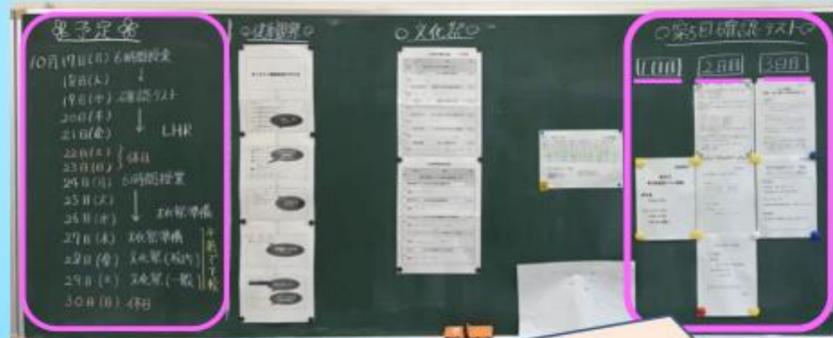
それぞれの学校でも参考にしてみてくださいね。



## ①教室（学校）環境のUD

- ・分かりやすく、意欲を高められる環境、子供たちが「居心地が良い」と思える環境
- ・教室前方、側面、後方の掲示物の配慮。
- ・座席の配慮。
- ・どこに何があるか、分かりやすく整理整頓されている。

### 都立高校



#### 教室後ろの掲示

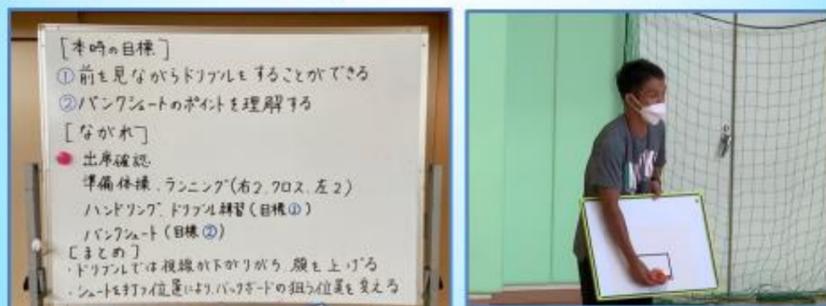
テストの日程別にプリントを貼っている。その日にどの教科があるか分かりやすい。どの教科をいつ勉強すれば良いか、確認もできる。

## ②授業のUD

- ・視覚化：学習内容や考え方、資料等を図や画像などの視覚情報として示す。
- ・焦点化：学習目標や内容を絞り込んで授業展開の構造をシンプルにする。
- ・共有化：話し合いなどで学ぶ内容等を互いに共有して確実に定着させる。

(筑波大学附属小学校 桂聖)

### 都立高校 体育



#### 生徒が、学ぶべきことを理解して授業に取り組めるイメージがしやすい視覚支援教材

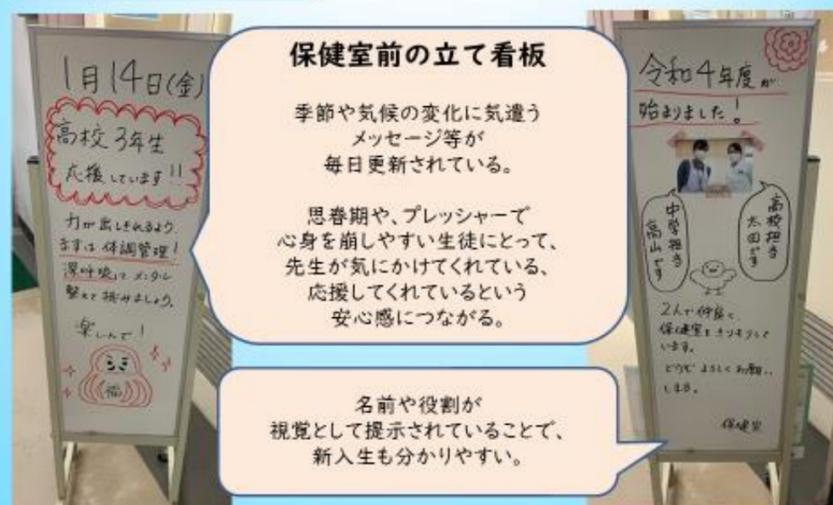
この授業では、何が目標なのか生徒が理解し、意識して取り組むことができる。授業の流れに見通しをもち、主体的に取り組むことができる。途中で、分からなくなっても、ボードで確認することができる。

## ③人的環境のUD

子供たちが安心して「分からない」「できない」と言える、SOSが出しやすい。

- ・教員が困難をもった子供との関わりのロールモデルとなる。
- ・レジリエンス(心の回復力)を育てる学級、学校。

### 都立高校



#### 保健室前の立て看板

季節や気候の変化に気遣うメッセージ等が毎日更新されている。

思春期や、プレッシャーで心身を崩しやすい生徒にとって、先生が気にかけてくれている、応援してくれているという安心感につながる。

名前や役割が視覚として提示されていることで、新入生も分かりやすい。